

## 2015年度教員による授業相互参観実施状況報告書(集約結果一覧)

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
法学部	4科目	4科目	新任教員の講義とそれに関連する講義を、相互に参観し、そのなかで気づいた事項を学科会議の場で紹介し、質疑を行った。 講義の進め方はもとより、支援システムの使い方、小テストや資料の作成方法など参考になる点が多かった。また、学生の様子を客観的にとらえることができたのも、メリットと思われる。	対象科目を増やすこと。
文学部	67科目	16科目	例年どおり、あらかじめ公開科目を決め、それを一覧表にして教授会で配布し、各教員が参観した。なお、2015年度の相互授業参観実施方法については「学部等による創意工夫・裁量によって柔軟な方法を選択」(2015年4月23日 教育開発支援機構FD推進センター長「2015年度教員による授業相互参観の実施について」(各学部等における実施と実施状況報告書提出のお願い))せよとの指示にもとづき、「文学部生のキャリア形成」と「現代のコモンセンス」(各界の現場にて活躍する社会人講師によるリレー講義)も授業相互参観実施科目数にカウントした(計1コマとして)。	教員の授業相互参観を活性化させるために、今年度においても文学部質保証委員会が学部内の意見を集約した。これらの意見に看取される、より適切な授業参観実施方法の方向性を見定める作業は未完である。また、昨年度と同委員会から検討が提案された「全専任教員の授業にアポ無しで参観できる「オープンクラス・ウィーク」を半期ごとに1週間設ける」という案に対する議論も十分におこなうことができなかった。これらは次年度の課題といえる。
経済学部	73科目	7科目	(1)実施方法 ①公開方法 経済学部専任教員は各担当科目のうち原則1科目は授業相互参観科目とする。 ②参観方法 経済学部所属教員は、所定の期間内にあらかじめ参観申込をしたうえで授業参観することとする。 ③公開期間 2015年6月22日(月)～6月25日(木)  (2)授業実施者へのフィードバック等 参観申込み者には、執行部まで①授業担当者に対する感想、②授業相互参観制度に関する意見・感想の提出を依頼した。①授業担当者に対する感想については、授業担当者本人にフィードバックを行った。	(1)公開科目数に対して実施科目数が少なかったため、実施時期直前の周知を工夫し、実施期間の延長等を検討し、実施科目数を増やし、経済学部の教育力の向上を図ることが今後の課題である。  (2)兼任講師を含めた授業参観の対応については、今後、検討していきたい。
社会学部	全開講科目	47科目	①オムニバス型の授業での実施(5科目): 授業の方法や内容に関わり、参加した教員が相互に刺激を与え合う機会となった。 ②ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業を通じた実施(42科目): 外部講師による授業を参観することで、授業上の様々な工夫について気づきを得る有用な機会となった。	教員が相互の授業について関心を持ち、授業相互参観のみならず、教員間の交流を通して授業の方法・内容の改善を図ることを推奨していく。あわせて、ゲスト講師制度を利用した授業等の情報の集約・周知を、引き続き徹底していきたい。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
経営学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として専任・兼任・兼任教員による講義授業とし、演習等の小規模授業は除く。ただし、公開するかどうかは各教員の自由に委ねた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後述の参考資料の通り計25回(2014年度21回、2013年度12回)</li> </ul>	<p>(1) 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施期間: 2015年6月1日(月)～6日(土)、8日(月)～13日(土)。実施については、教員にはメール等で、学生には掲示板を通してお知らせする。学部での公開期間は上記の通りとするが、5月11日(月)～2015年12月24日(木)の授業期間については相互参観可能とする。</li> <li>参観の方法: 具体は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 参観者の範囲と参観: 経営学部の専任教員と兼任・兼任教員とする。</li> <li>② 事前許可: 原則として、参観者は、参観を希望する授業日の1週間前までにe-mail等で担当教員に直接申し入れる。ただし、専任教員授業の参観を希望する兼任教員、兼任教員授業の参観を希望する専任教員は、経営学部事務を通して担当教員に申し入れる。</li> <li>③ 入室および退室時間: 授業の妨げにならないよう、原則として、入室は授業開始前に、退室は授業終了後とする。ただし、授業途中での入室を希望する場合は、参観の申し入れの際に、その点をあわせて担当教員に申し入れる。</li> <li>④ 受講者への告知: 参観教員がいることを受講生にどう伝えるかは、各教員に一任する。</li> </ul> </li> <li>参観後のフィードバックと改善: 参観後に、参観者は参考になった点等を公開教員に伝える。また、参観者があった授業の担当教員は、参観後1週間以内に、参観内容について経営学部事務に連絡する。</li> </ul> <p>(2) 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年、執行部が参観することが多かったが、本年度は執行部のみならず、着任1～2年目の教員、内部質保証委員も参観を行った。また、非常勤講師の授業やILACのマクロ経済学も参観した。参観者人数も増え、参観授業科目のバラエティも広がった。</li> <li>実施したすべての科目において、参観後のフィードバックが実施され、科目によっては参観者・授業担当者間の意見交換も行われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が少なく、執行部が参観する場合がまだ多いため、教授会やメールでのアナウンスなど、参加への呼びかけに一層努力したい。</li> <li>教学問題委員会や内部質保証委員会、学部内で実施しているFD懇談会などの機会を活用して、議論する場を設け、授業相互参観に対する理解を深めるとともに、活性化したい。</li> </ul>
国際文化学部	専任教員が担当する全科目	7科目 (市ヶ谷基礎科目2科目、専門科目5科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2014年度第11回教授会(2015年3月3日開催)にて努力目標として専任教員は少なくとも2年に1度、他教員の授業を参観するとの決定を行った(参観期限は従来どおり設定しない)。その原則の下、本年度はとくに春学期と秋学期にそれぞれ推奨期間を設けた(春学期は6月17日から6月30日まで、秋学期は11月9日から11月28日)。また管轄するFD委員会ならびに執行部はとくに参観を推奨する科目の曜日時限、科目名称、教室などを一覧にし、学部MLにて教員に情報を流した。</li> <li>今年度は、従来の2教員間の相互参観だけでなく、ILAC科目に習い、自らの授業を振り返り、気づきを得るためのセルフ授業参観(ビデオ記録)による取り組みや、合宿に参加して授業参観を行った例もそれぞれ1件あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来は1年に1度授業相互参観を行うことが義務づけられていたが、今年度からは2年に1度の努力目標となった。条件緩和がもたらす影響は新ルール2年目にあたる2016年度に顕在化するので注視したい。</li> <li>参観を推奨するための工夫を引き続き検討し、教授会の決定を突のあるものにしていく必要がある。</li> <li>参観の効果を周知するとともに、参観しやすい精神風土の醸成に引き続き努めていきたい。</li> </ul>
人間環境学部	全科目	5科目	<p>執行部(3名)が、春学期に授業相互参観を行った。履修者数が多い講義、中規模教室における講義、少人数の講義の3種類に分け、人文系、社会科学系、自然科学系と異なった領域の講義を参観するように工夫した。</p> <p>講義に際して、パワーポイント、映像教材の使用などさまざまな媒体を用いて学生の理解を助ける工夫がなされた講義、授業内容に関連した逸話や教員の体験談などをテンポ良く随所に盛り込んだ説明など、学問領域を超えた教授方法の工夫に関して、理解することができた。</p> <p>また、本学部ではフィールドスタディという現地学習が国内外で22コース(2015年度)あり、その中で複数の教員が担当するコースが10(うち1つは同一コース2回開催)ある。異なった専門領域の教員がフィールドスタディに参加することで、教育内容、方法の学びに繋がっていると考えられる(なお、実施科目数には加えていない)</p>	<p>執行部以外の教員に、授業相互参観の実施を促すことが課題であるが、上記のフィールドスタディにおいて補完的な機能を果たしていると考えている。</p>
現代福祉学部	現代福祉学部専任教員の担当科目(ただし、演習・実習科目、情報・調査系科目、言語コミュニケーション科目、その他、担当教員が公開を希望しない科目を除く)	3科目	<p>(1) 実施方法</p> <p>a 公開期間 春学期: 2015年6月19日(金)～6月25日(木) 秋学期: 2015年12月14日(月)～12月19日(土)</p> <p>b 公開範囲 法政大学教職員</p> <p>c 申し込み方法 事前申込制</p> <p>(2) 効果</p> <p>以下のような点を中心に、教授方法の工夫や学生への対応など、教員間での学びを深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で外部講師を招いての講義があり、教員および学生たちにとって貴重な経験となっていた。</li> <li>担当教員の意向で公開講座として位置づけられ、通常の実講生以外の学生にも広く聴講を公開されており、受講生にとっても適度な緊張感が生まれていた。また学生からも活発な質問が交わされ、双方向の授業が展開されていた。</li> <li>講義の随所に工夫が感じられ非常に参考になり、自身の講義を見直すきっかけとなった。</li> </ul>	<p>参観者が少ない為、教授会等でのアナウンスを含め、教員相互への理解の徹底を推し進めたい。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
情報科学部	学部全科目	基礎科目および複数教員共同担当科目を中心に5科目	基礎科目では類似の授業を複数クラスで行っている科目を中心に実施した。学生の理解度に幅がある場合の授業の進め方について担当教員間で情報共有ができ、クラス間の進捗度のバランスをとるのに役立てることができた。複数教員が共同で担当するクラスでは、各教員の間で、それまでの学生の理解度について情報共有することで、担当箇所の講義の難易度を調整し、全体としての講義内容のスムーズな理解に役立てることができた。	プログラミングなど新カリキュラム2年目にあたる科目においては、前年度の講義の状況との比較も必要である。このため、有用な授業方法などの経年的な情報共有も必要であると考えられる。引き続き、学部全科目を公開科目とし、重点課題を決めるなど計画的で継続的な授業相互参観を行ってきたい。
キャリアデザイン学部	29科目	5科目	・公開状況(集中実施は6月、ただし他期間でもよい)が一目で分かるよう、学部内情報共有システムに時間割表を掲載した。 ・実施科目数÷公開科目数は2割弱であったが、参観がなされた2つの講義科目に関して、秋学期冒頭の学部FDミーティングにて、アクティブ・ラーニングを意識しつつ、授業者と参観者からの報告と質疑応答を行なった。それをふまえて、2016年度シラバスには、【授業中に求められる学習のタイプ】という項目を新たに設け、A～I(より伝統的・個人活動的～より能動的・協動的)に分類された記号を記入することとなった。	・公開授業の時間割は一覧性があり見やすいとの声があった。 ・誰もが多忙なかた実施比率を上げるとすれば、たとえば、授業者から、参観者にチェックしてもらいたいポイント(グループワークの取り組み具合の差、参観者の授業との内容的関連、など)を予め提示する方法が考えられるだろう。参観者に積極的な役割を与えることはインセンティブになり、教授者相互の学び合いを促すと思われる。
デザイン工学部	【建築学科】16科目 【都市環境デザイン工学科】学科主催の全科目(他学科学生との混成クラスを除く) 【システムデザイン学科】8科目	34科目	建築学科においては、デザインスタジオや卒業研究、卒業設計において、全クラス合同の講評会を行い、兼任を含む教員が相互に他の科目やクラスの内容について理解し議論できるようにしている。さらには、公開の講評会により学内外に対して学習成果を公開し、批評を受ける機会を設けている。  加えて、スタジオ科目、フィールドワークおよび修士設計、卒業設計での優秀作品と、卒業研究の梗概を、それぞれ学科発行誌「法政大学スタジオワークス」、「建築研究」に掲載することで達成状況を共有している。また、年度末には、全スタジオ(デザインスタジオ1～11、造形スタジオ、構法スタジオ、デジタルスタジオ)の担当教員が一堂に会し、設計教育の振り返りと、新年度方針について討議する機会を設けている。  一方、各授業での活用資料や学生の学習成果はもれなくサーバーに蓄積されており、これを学生の学習のため、あるいは教員の授業改善のための参考資料として閲覧できる仕組みを設けている。  都市環境デザイン工学部においては、学科主催の科目について全教員(兼任も含む)を対象として、授業をビデオ撮影し、相互に参観できるようにしている。具体的には、授業冒頭10分間程度をビデオ撮影し、学内の共有サーバー(専任教員向け)、学科事務内の共有PC(兼任教員向け)にアップロードして適宜確認するようにしている。  システムデザイン学科においては、1年時「導入ゼミナール」におけるフィールドワーク成果発表、3年時「プロジェクト実習・制作1」、「プロジェクト実習・制作2」、4年時「フィールドワークSD」、「応用プロジェクト」等、クリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系横断型必修講義、演習授業が設置されており、各授業、演習授業において各教員の授業相互参観がなされている。	都市環境デザイン工学部において、概ね3-4年程度で全ての対象全科目を撮影・相互参観を目指している。
理工学部	機械工学科:5科目 電気電子工学科:4科目 応用情報工学科:11科目 経営システム工学科:4科目 創生科学科:5科目 (※模擬授業含む)	実施科目数28科目 参加教員数43名	1.実施時期 2015年度 春・秋学期(6月15日(月)～1月20日(水)まで) 2.実施方法 以下の2通りを実施した。 a)個別授業相互参観 ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則とする。  b)学科に特化した柔軟な運用による公開(学科別) ・学科別にa)とは別の形式で、学科独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例PBL、実験・演習、オムニバス形式授業、研究室配属説明会、卒業・修士論文中間発表会を用いたプレゼンテーション能力の検討等)。	・授業相互参観の実施科目数の向上及び実効的なフィードバック方法の検討 ・他学部理系教員による外部評価を含めた相互参観システムの検討 ・兼任講師を含めた、全授業における授業相互参観に関する検討 ・組織的な授業相互参観重点科目の検討

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
生命科学部	春学期74科目 秋学期82科目	春学期29科目 秋学期19科目	生命科学部では、今年度、春学期(6月8日～7月4日)と秋学期(11月9日～12月5日)の2回、授業公開として法政大学の全教職員向けに授業を公開した。これまでは、環境応用化学科のみが兼任講師担当科目も含む全科目を公開していたが、今年度から生命機能学科と応用植物科学科の兼任講師の授業も一部公開(担当教員の同意の得られた科目のみ)となり、相互に授業参観することとした。 講義を参観した教員からは、自らの授業に目にした取り組みを活かせるとの意見があり、参観を受けた教員からは、緊張感があり講義を見直すきっかけになったとの意見が聞かれた。	次年度以降も同様の形態で授業相互参観を継続したい。ただ、他学部との交流も実現できればと考えている。本年度は一部の学部にも本学部科目への参加を呼びかけたが、残念ながら参加者はなかった。今後、相互参加の形の参観を検討したい。
グローバル教養学部	10科目 (春学期6科目 秋学期4科目)	10科目 (春学期6科目 秋学期4科目)	100番台8科目、200番台2科目で実施し、すべてGISの専任教員と職員が参観できることとした。執行部は該当科目の授業を参観し、後日該当教員にフィードバックを行った。教授会においてレポートが提出され説明がなされた。若手専任教員やベテラン兼任講師の授業の創意工夫からは経験のある学部教員も学ぶべきことが多く、逆に、新規兼任講師に対しては学生の注意のひき方、板書やスライドの工夫など授業運営のスキルについてアドバイスができ、相互に得るものがあった。学部FD ワークショップで取り上げた教授法にもつながり、FD活動がさらに活発化された。全体的に高い質の授業を、さらにレベルアップする効果があった。	新カリキュラムの発足に伴い、専門科目の大幅な増加に加え、新英語スキルプログラムも開始されるため、授業参観の目的、実施方法、規模、効果などに関して教員間の認識を深め、より多くの教職員に参加をよびかけた。
スポーツ健康学部	全科目	7科目	2015年度は前年度に実施し好評であった方式である専任教員があらかじめ参観科目を事前に申請し、事後に報告を求めるといった形式をとった。しかしながら実際には7科目での実施でとどまり、昨年度の実績を上回ることはできなかった。 春学期は1名の専任教員の実施にとどまったものの、秋学期には5名の専任教員が各々の専門の教員(兼任講師を含む)の授業を参観していた。このように兼任講師の授業も参観できていたことは成果であったといえる。 個々の報告ではこの制度が自身の授業に対する振り返りにもなり有意義な制度があることが述べられていた。	次年度は今年度の反省をうけて; 1. 引き続き教員全体に早い段階でかつ繰り返し参観希望を確認することで実施率を高める。 2. 授業相互参観の報告を教員間で共有し、授業改善につながる取り組みとする。 以上の2点を課題とする。
市ヶ谷リベラル アーツセンター	全科目	5科目	2014年度に取り決めた内部質保証活動の一項目として、次の3パターンに分類して、2015年度も実施した。1. 新任教員が参観者となる研修型。2. 授業相互参観。3. ビデオ機材を利用したセルフ型参観。実施した内容は独自報告フォーマットにて報告を行い、年度末に開催した内部質保証委員会と共有した。一定の効果は認められた。	従来の3つの形式による参観を継承・推進させていくとともに、授業の方法、学生の反応、アクティブ・ラーニングその他に関する授業の工夫などについて、教員同士で報告・検討し合う科目別の授業報告・検討会(仮称)を随時開いて、授業の質の向上を相互に図るための機会としたい。
小金井リベラル アーツセンター	英語:3科目 諸外国語:1科目 人文社会:1科目 リテラシー:1科目 自然科学:5科目	実施科目数 11科目 参加教員数のべ12名	1. 実施時期 2015年度 春・秋学期(2015年6月15日(月)～2016年1月20日(水)まで) 2. 実施方法 以下の2通りを実施した。 a) 個別授業相互参観 ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 b) 各分科会に特化した柔軟な運用による公開 ・分科会別(=a)とは別の形式で、分科会独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例 外国語プレゼン能力向上方法の検討、リメディアル科目の内容検討等)。	・授業相互参観の実施科目数の向上及び実質的なフィードバック方法の検討 ・各分科会に特化した柔軟な運用を含む授業相互参観の検討 ・兼任講師を含む全授業における授業相互参観に関する検討 ・組織的な授業相互参観重点科目の検討